

續古今和歌集卷第一

春哥上

春哥上

中納言家

春哥上

崇徳院中百首

藤原清衡朝臣

春哥上

春哥上

春哥上

春哥上

春哥上

春哥上

春哥上

春哥上

春哥上

春哥上

春哥上

春哥上

春哥上

春哥上

春哥上

春哥上

春哥上

春哥上

春哥上

春哥上

春哥上

春哥上



中務卿親王

鳳子... 香清... 兼白左大臣

建保三年丙裏に百首歌... 兼中納言

香河... 兼中納言

香河... 兼中納言

香河... 兼中納言

香河... 兼中納言

香河... 兼中納言

香河... 兼中納言

香河... 兼中納言

香河... 兼中納言

香河... 兼中納言

香河... 兼中納言

香河... 兼中納言

香河... 兼中納言

香河... 兼中納言

香河... 兼中納言

香河... 兼中納言

香河... 兼中納言

香河... 兼中納言

香河... 兼中納言

香河... 兼中納言

香河... 兼中納言

香河... 兼中納言

香河... 兼中納言

香河... 兼中納言

香河... 兼中納言

香河... 兼中納言

香河... 兼中納言

香河... 兼中納言

道二位出登

うらたしんじのし野は花をい城を春の香い

古河門院の事

多しはしんじのし野は花をい城を春の香い

香中子日といふは

白書はさるるのふし相承し乎に春の香い

園鞆院は清時しんじのし野は花をい

平道威

祿のりしをいりおるはうみふはゆふはにのん

永保元年中宮は子日

贈大政大臣 経美

うりしきをいりおるはうみふはゆふはにのん

子日公也

太上天皇

祿長六年三月哥合に當り

建長六年三月哥合に當り

おはしはまのふしにいりおるはうみふはゆふはにのん

春清哥中

今上御哥

そはしんじのし野は花をい城を春の香い

道助法親王

入道兼大政大臣

春の香い城を春の香い

西園寺入道兼大政大臣

うらたしんじのし野は花をい城を春の香い

道助法親王

しんじのし野は花をい城を春の香い

香中子日といふは

上東門院

香中子日といふは

香中梅花といふは

花山院御哥

しんじのし野は花をい城を春の香い

上東門院

昔元花に由りて芳き花也 ありては好む花也 今  
中津梅花といふる也

花山流御歌

しうしかりきさるる 白雪のやまに花と見ゆるは  
おのれと

蘇原基後

らば井にうらむらせき 雪原の物たのむといふは  
心治三年ふまはりのうらむる百首の書り

白夫后文大夫後成

こつこつにまかりに成成たりて 心はまはるる  
花流春月也 後二位家澄

まよひの都の夜もくさけけ月 風文に  
建保元年ふまはりのうらむる百首の書り

入道兼大政大臣

くさけけの都の夜もくさけけ月 風文に  
大御門内大臣ありて野集

藤原隆信朝臣

くさけけの都の夜もくさけけ月 風文に  
題り

柳女丸

くさけけの都の夜もくさけけ月 風文に  
弘長二年百首にふまはる

中務卿親直

春まに美えりて白書けりて 岸に柳原  
百首歌りてふまはる

順徳院御歌

流まうりてありて 高砂の松はるる 義のうらむる  
建仁元年三月哥合に霞涌遠樹といふ

兼中納言定家

くさけけの都の夜もくさけけ月 風文に  
くさけけの都の夜もくさけけ月 風文に

百首哥りくむゆいしんふ

順徳院御歌

詠まうらうらふくく高砂の松枝う葉かすまうら  
建仁元年三月哥合に霞浦遠樹といふ

中納言定家

何處にらね儀の程はそくもくゆかすむ春ふ  
題いし

後鳥羽院御歌

春の海浦のそくもくゆかすむ春ふ  
会乃人のもくもくゆかすむ春ふ  
お十首哥り中二江と兼ふ

太上天皇

そくもくゆかすむ春ふ  
えく詩哥合に御看坐こし事と

醍醐入道太政大臣

去れ歌のあけりそくもくゆかすむ春ふ  
百首哥りくむゆいしんふ

白太后交々後成

あけりそくもくゆかすむ春ふ  
後二位家澄二江と兼ふ

藤原交々後成

あけりそくもくゆかすむ春ふ  
中納言親直

大納言経信

あけりそくもくゆかすむ春ふ  
順徳院御歌

順徳院御歌

あけりそくもくゆかすむ春ふ  
後鳥羽院御歌

後二位家澄

あけりそくもくゆかすむ春ふ  
春歌のあけり月夜ふらふ

江と霞とと事なとよの

順流河哥

あはれはゆき梅もさるるにふりしはあはれはにほひ梅もさるる

春の霞と

後二位家澄

春の霞のけはる月暮るふりもあはれ朝日はあはれふりもあはれ  
涙流河政家の百首哥に霞と

光明寺の春道宗河政家

春の霞のけはるにふりしはあはれはにほひ梅もさるる

月流河院に梅もさるるに霞と

今と河哥

春の霞のけはるにふりしはあはれ朝日はあはれふりもあはれ  
建長六年三首哥言に梅と

中納言為氏

あはれはゆき梅もさるるにふりしはあはれ朝日はあはれふりもあはれ  
同六年三首哥に梅と事な

流大納言典信

あはれはゆき梅もさるるにふりしはあはれ朝日はあはれふりもあはれ

三百首哥中一冊

中務御親重

あはれはゆき梅もさるるにふりしはあはれ朝日はあはれふりもあはれ  
寛治元年河院入内屏風哥

入道宗大政大臣

あはれはゆき梅もさるるにふりしはあはれ朝日はあはれふりもあはれ  
寛治二年百首哥言中梅葉風と事な

梅葉風

あはれはゆき梅もさるるにふりしはあはれ朝日はあはれふりもあはれ

正治二年百首哥に

中納言定家

あはれはゆき梅もさるるにふりしはあはれ朝日はあはれふりもあはれ

藤原義孝

正治二年百首歌に

兼中納言定家

うららかに花をらりてさくらと白き花の心はたの梅  
梅はさくら

藤原義孝

春風は花の心は梅の心はさくらと梅  
さくら流解新物に花の心は梅の心はさくら  
一にさくらを流さるる時を待つる歌

伴鏡

思はれ今にさくらと梅の心はさくらと梅  
藤原兼敏如神歌百首名

平道盛

秋宵に花の心は梅の心はさくらと梅  
更衣え善の心はさくらと梅

光孝天皇御歌

しる花の心は梅の心はさくらと梅  
題不知

柳中入磨

うららかに花の心は梅の心はさくらと梅  
梅の花の心はさくらと梅

衣笠宗因

うららかに花の心は梅の心はさくらと梅  
百首歌名

後京極権政兼大臣

うららかに花の心は梅の心はさくらと梅  
かきと花の心は梅の心はさくらと梅

山色赤

あきと花の心は梅の心はさくらと梅  
岸柳を

大納言通方

あきと花の心は梅の心はさくらと梅  
百首歌名

中務卿親直

あきと花の心は梅の心はさくらと梅  
兼左大臣兼左大臣

兼左大臣兼左大臣

あきと花の心は梅の心はさくらと梅  
道助法親王兼左大臣兼左大臣

道二位兼左大臣

元在末集待妻之乞

道助法親王處女于首哥に春月也  
後二位出澄

中務少輔親王處女百首哥に中二  
中納言

後少我部大政大臣處女百首哥也  
右御門院小宰相

春月也  
中納言顯朝

月新也  
中務少輔親王

後二位出澄

建保元年百首哥  
入道兼大政大臣

夜笠兼出澄

二条院讚岐

後二位出澄

後京極權政兼大政大臣

兼大納言為家



後京極権政兼大納言  
いふと云ふことの中納言の  
于首哥らと約ふゆい

兼大納言為家

約らばいふは花と云ふは  
左大臣

花号といふ

わさめいふはもろく梅の  
後鳥羽院実内侍

後鳥羽院実内侍

見ゆるもゆと計は  
後堀河院兼部内侍

後堀河院兼部内侍

いふは  
後二位直盛

建保元年百首

いふは  
春やいふと

頃酒院侍哥

いふは  
于大納言哥名哥

大納言有家

いふは  
新始書花といふと

藤原法親朝臣

いふは  
親哥中に

藤原雅有朝臣

いふは  
大宰大貳高遠

大宰大貳高遠

いふは  
入道兼大政大臣

入道兼大政大臣

いふは  
法成寺入道兼権政兼内侍

法成寺入道兼権政兼内侍  
藤原長能

藤原長能

いふは  
藤原長能といふと

藤原長能といふと

春歌下  
頃述院御哥

白雲を起りて人かへりて人様をたはれりて  
于六百番哥名前

大花舞有歌

あつきのたはれはるる花威をたはれりて  
新始春歌とりて

藤原法親朝臣

ゆききに花枝梢中時りしに  
花歌中に

藤原雅有朝臣

昔野いよまらりては白雲をかきりて  
大宰大貳高遠

大宰大貳高遠

白雲をたはれりて  
入道兼大政大臣

入道兼大政大臣

あつきのたはれりて  
春歌

法成寺入道兼校政兼屏風哥  
藤原長能

藤原長能

いほら春歌をたはれりて  
春歌といふる

兼中納言室直

日下くは花枝を乃花枝喜きりて  
建長六年三月三日首前合に花を

兼大政大臣

あつきのたはれりて  
あつきのたはれりて

あつきの

續古今和歌集卷第二  
春歌下

續古今和歌集卷第二

春哥下

鶴山乃仙洞中より此の櫻をみよしとて  
ゆり花のむしりてよきとくよしの

大上天皇

春とて昔もやよみしりて花のよきを宿に終れ  
ぬ乃ち名にまはれり

中務卿親王

山平より山乃櫻をよみしりて震乃神に  
百首哥人にてよきとくよしの

洞院権政大臣

夏より山乃櫻をよみしりて花のよきを  
兼大納言為歌

山乃櫻のよき此櫻乃花よりよきとくよしの  
清長三月福考此花ん此のよきとくよしの

平兼盛

山乃櫻のよき此櫻乃花よりよきとくよしの  
建曆此は南殿の花のよきとくよしの

後鳥羽院御前

山乃櫻のよき此櫻乃花よりよきとくよしの  
建長六年三月三首哥一首

約從新出

山乃櫻のよき此櫻乃花よりよきとくよしの  
花哥此中に

左近中将經平

山乃櫻のよき此櫻乃花よりよきとくよしの  
寶治三年百首哥子見花よりよきとくよしの

大宰権帥為經

山乃櫻のよき此櫻乃花よりよきとくよしの  
題不名

鷹司院梅家

山乃櫻のよき此櫻乃花よりよきとくよしの  
山乃櫻のよき此櫻乃花よりよきとくよしの

予くもて成るのめりて... 鷹司院梅家

如風乃由... 彰花以何家

志大... 乃百首... 彰花以何家

後... 道... 彰花以何家

可... 我... 彰花以何家

花月百首... 彰花以何家

後... 彰花以何家

今... 乃百首... 彰花以何家

弘長三年... 彰花以何家

大上... 彰花以何家

今... 乃百首... 彰花以何家

前... 彰花以何家

今... 乃百首... 彰花以何家

夜... 彰花以何家

花... 乃百首... 彰花以何家

建保元年... 彰花以何家

前... 彰花以何家

機... 乃百首... 彰花以何家

同二年... 彰花以何家

花... 乃百首... 彰花以何家

久... 彰花以何家

時... 彰花以何家

左... 彰花以何家

い... 乃百首... 彰花以何家

建保元年... 彰花以何家

入... 彰花以何家

ゆ... 乃百首... 彰花以何家

今... 彰花以何家

後... 彰花以何家

今... 乃百首... 彰花以何家

民... 彰花以何家

後鳥羽院御寄

またけいさの東に梅ありては梅の香は梅の  
古舞花と

古舞の花にむくはさういふ世の代をさう梅

亨子院御寄

在承元方

多岐の梅をわきまはさう梅の香は梅の香は梅の  
延喜御時東文の四屏風よ

貫之

川辺の梅をわきまはさう梅の香は梅の香は梅の  
為園寺にむく花の奇めさう梅の香は梅の香は梅の

入道兼大政大臣

此里の梅をわきまはさう梅の香は梅の香は梅の  
さう梅の香は梅の香は梅の香は梅の香は梅の香は梅の

弘長元年百首奇をまはさう梅の香は梅の香は梅の

兼大納言為家

うらさう梅の香は梅の香は梅の香は梅の香は梅の香は梅の  
花はさう梅の香は梅の香は梅の香は梅の香は梅の香は梅の

月夜門院

繁花の梅の香は梅の香は梅の香は梅の香は梅の香は梅の  
さう梅の香は梅の香は梅の香は梅の香は梅の香は梅の

堀河院中宮

西さう梅の香は梅の香は梅の香は梅の香は梅の香は梅の  
目吉社より百首奇をまはさう梅の香は梅の香は梅の

後鳥羽院御寄

吉野の梅の香は梅の香は梅の香は梅の香は梅の香は梅の  
題不気

人丸

父やさう梅の香は梅の香は梅の香は梅の香は梅の香は梅の  
弘治三年百首に

後鳥羽院御寄

百首奇中に  
九条左大臣

少々あるおしり月新の生を色を以て人  
心治三年百首に 後京極權政兼大政大臣

百首中にて 九条左大臣

百首中にて

少々の記に乞ひらるるは今木村の出る春はあ月

月乃は内裏は女房西園寺に記すに海より

多か約肉のよ 入道兼大政大臣

あまのたの木は海を月しむり付るも長久入

系議治身平

ちり心記は鏡の如く物まらむと云ふ春はあ月

月首落花といふ事と云ふ約分村

内大臣

い海に月と云ふもおしり心記はあ月有の如く

千又百首中にて 二條院讃岐

いまの春はあ月有の如くおしり心記はあ月

日吉社より云ふ事と云ふ約分村

公三位兼右

い海に月と云ふもおしり心記はあ月有の如く

題不知 新恒

い海に月と云ふもおしり心記はあ月有の如く

西院皇居文士御門院兼大政大臣に記す

海に月と云ふもおしり心記はあ月有の如く

まいらるる事と云ふ約分村

大綱書經信

い海に月と云ふもおしり心記はあ月有の如く

鴨長の

い海に月と云ふもおしり心記はあ月有の如く

百首中にて 左大臣

い海に月と云ふもおしり心記はあ月有の如く

兼左大臣

い海に月と云ふもおしり心記はあ月有の如く

性助法親王

百首歌中に 左後

ふむる昔風はむらむらと祿をむらむらと花は地はす人  
兼用白左後

山櫻はさきとむらむらと花は地はす人  
性助法親王

文永元年内裏に氣はけり今百首度と  
大納言良兼

大納言通具  
千又百首歌合

山櫻はさきとむらむらと花は地はす人  
直秋院母後

春風はさきとむらむらと花は地はす人  
松尾白左後

湯の門院の娘交と戸の多時月より生を  
式子内親王

松尾白左後  
式子内親王

羨けりさきとむらむらと花は地はす人  
正治二年

正治二年  
兼用白左後

兼用白左後  
直秋院母後

春歌  
直秋院母後

兼用白左後  
直秋院母後

道助法親王  
直秋院母後

後二位  
直秋院母後

山櫻はさきとむらむらと花は地はす人

道助法親王...乃身首に山花を

後二位出澄

山花おのしけはつひは...神を祀るは

後鳥羽院御奇

白長思花といふ事...一茶院御奇

寶治二年百首奇

兼内大臣基

花奇中...入道兼大政大臣

源俊賴朝臣

古野河原に天水...延喜十三年亭子院奇合祝

切と是則

春比野に葉...父葉菜といふ事

山色赤人

河歎...大上天白

大上天白

文永二年七月七日...藤原光俊朝臣

藤原光俊朝臣



文永二年七月七日題此のり七首  
舟よりせしめしに傳歎を也

藤原之後朝臣

嘆にけりし後世の心もやみそ人の心も

田家歎を

約賢門院堀河

きんにけり苗代水にけりて田中村井の心も

歎を也

衣笠茶屋大匠

うらみ花をけりけりけり色もとせしむる心も

岸歎を

兼大納言為家

ふせ河津地かけるといふ岸より建しけり歎を也

洞院攝政家百首哥

兼中納言実家

ふりし春を言ふ心も花をけりけり心も

足助家入道兼攝政日大納言時百首

舟言春也

春をけりけりけりけりけりけりけりけり

百首哥もまほのけりけりけりけり

兼水鏡忠定

ふりし春を言ふ心も花をけりけりけり

藤原の心を約する

中務卿親王

きんにけり花をけりけりけりけりけり

心流百首哥に 後二位家隆

おれけりけりけりけりけりけりけり

題しりし也 貫之

きんにけり花をけりけりけりけりけり

二月のころけりけり藤原のころ

延喜寺哥

ふりし春を言ふ心も花をけりけりけり

建保元年百首哥のころけりけり

兼鑑大僧正

ふりし春を言ふ心も花をけりけりけり

題 貫之

ふにゆる木のさかえたるをきくは若武臣の  
二月のころに日藤のころ

延喜御歌

ふきまをさしけりけりては若武臣の  
建保元年百首歌のころ

延喜御歌

ふにゆる木のさかえたるをきくは若武臣の  
昔春の公をさしけりては若武臣の

後三葉院御歌

ふにゆる木のさかえたるをきくは若武臣の  
三月のころに日藤のころ

延喜御歌

ふにゆる木のさかえたるをきくは若武臣の  
三月のころに日藤のころ

延喜御歌

ふにゆる木のさかえたるをきくは若武臣の  
右近大将通雅

大治御歌

ふにゆる木のさかえたるをきくは若武臣の  
左原之方

延喜御歌

ふにゆる木のさかえたるをきくは若武臣の  
入道兼大政大臣

延喜御歌

ふにゆる木のさかえたるをきくは若武臣の  
ありたり





續古今和歌集卷第一  
春哥上

一斗年批り乞ふは一巻のり中少くも  
有るに約分の時歌に百首有り  
崇徳院中百首  
藤原清通朝臣

一斗年批り乞ふは一巻のり中少くも  
有るに約分の時歌に百首有り  
藤原清通朝臣





續古今和歌集春之部

冷泉殿爲廣卿筆

一卷

特別

A4

8233

